

「みんな」という縛り

日本人は集団心理が働くとよく言われていて、最近では同調圧力といった言葉を耳にすることがあります。日本人は周りの人との調和を大切にする傾向にあるので、チームワークや落ち着いた集団行動ができる反面、周りの人と足並みを揃えようとして自分の意見が言いにくいといった場面があります。(一部研究では、日本人の集団心理が働くという通説は違ふと発表されているようですが)例えば、皆さんも授業中誰も挙手発言しなかったら挙げにくいといった経験があるでしょう。

突然ですが、重松清さんの「きみの友だち」という小説を読んだことはありますか？友だちとの関係や自分自身に悩む、8人の「きみ」が出て来て、それぞれの「きみ」を主人公とした話が描かれている小説です。この本の書評を作家の角田光代さんが次のように述べています。

この小説が描き出すのは、学校、という過酷な場所である。読みはじめてすぐ、私はその場所がいかに過酷であったかをまざまざと思い出した。それは、経験や体験とはまったく関係がない。私は学校において過酷な体験をしたことがない。過酷だと、意識したこともない。それでもなおかつ、やはり学校は過酷な場所だったと、この小説を読んで思う。過酷さの原因は何か、といえば、関係だったのだと気づかされた。自分と他者との関係。「見る自分」と「見られる自分」の関係。ひとり、対みんな、の関係。

小説には、八人の「きみ」が登場する。「きみ」は、小学生だったり、中学生だったりする。ものしずかだったり、クラスの人気者だったりする。どんな子どもでも、しかし等しく重たい荷を背負っている。作者は、彼らの背負った荷の重さを、生々しくて目をそらしたくなるほど、リアルに描き出す。大人目で俯瞰せず、安易な風穴も空けず、子どもっぽい言動を大人の力で断罪せず、淡々と描き出す。教師も、両親も、彼らの背負った荷を軽くすることはできない。彼ら自身が、どうにか工夫して、荷を降ろすか、重さに慣れるか、するしかないのである。八人の「きみ」は、そんなふうには、孤独に闘い続けている。彼らの孤独を描きながら、作者は、友だちとは何か、というじつにシンプルな問いを投げかける。何度も、何度も。もちろん、この小説は道徳小説ではない。こういう人をこそ友だちと呼べる、などと定義づけているわけではない。作者が書くのはもっと根元的なこと——多大なプレッシャーを覚えながらもなぜ私たちはだれかと関係を結ばざるを得ないか、何を守るために闘い続けているのか——、学校という場所を出ていっても、生きていくかぎり私たちが逃れることのできないものごとである。

「みんな」という言葉がくりかえし出てくる。読み進むにつれて、そのなじみ深い言葉が、得体の知れない不気味なものに思えてくる。私が中学生のとき、口裂け女という都市伝説がものすごい勢いで流行し、当時、教師たちまでが、遅くまで学校に残るなどか、ひとりで下校するなどか、至極まじめに注意していたことを思い出す。実体の真偽がわからないのに、全員の共同幻想が、たしかに作り上げ存在させてしまう何か——「みんな」が、そんな何ものかのように、感じられてくる。(以下略)〈新潮社ホームページより〉

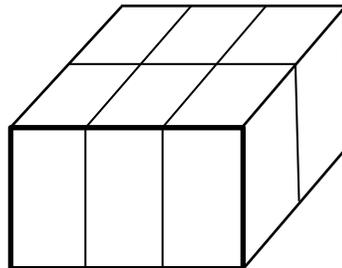
この作品で「みんな」の中で苦しんでいる当人たちは、結局「みんな」の中に戻っていくわけですが、それでも悩みを経たり、「みんな」から解放されている子と話したりすることで、自分らしさを見出していくように見えました。大人の私達も中学生の皆さんを最大限サポートしたいと思っていますが、それでも中学生同士にしかわからないことや気持ちなどがあると思います。相手の気持ち、周りの気持ち、自分の気持ちを考えながら過ごす、悩んだりすることがあって当然です。大人でも悩み迷うときもあります。ですが、そうやって悩みながらも経験や解決などしたことが、自分という

人間を形成する一つになっていくのだと思います。とはいえ、大切なことは一人で抱え込まないことです。悩みを口にしたり書きだしたりすることで心の整理が付きやすいとも言われているので、「助けて」と言える力も大切にしてください。

学年の先生のつぶやき ~今週は新保先生より~

【クイズ】

ある家族、お父さんが、上の面が正方形のチョコレートケーキを買ってきた。今日は娘の誕生日とのことだ。家族は6人なので、図のように6等分したところ、お姉さんが、「その切り方だと、真ん中2つの部分だけがチョコレートのコーティングが少ないので不公平だ」と言いました。ケーキを、体積だけでなく表面積も6等分するには、どのように切ればよいでしょうか。



今みなさんは、テストで点数を取るためや志望校に合格するために、数学の勉強をしている人が多いと思います。でもいつか、数学と生活の深い関わりを感じてくれるとうれしいです。数学は、人類の文明の歩みと共に発展してきましたから。

その言葉に対してこの問題は、あまりにかわいい問題でした。解いた人は新保まで。

<来週の予定>

日	曜	給食	1	2	3	4	5	6	学校行事等
11	月	○	道	○	○	○	○	○	卒業アルバム写真撮影
12	火	○	○	○	○	○	○	○	卒業アルバム写真撮影
13	水	○	○	○	○	○	特活	—	生徒会会長選挙
14	木	○	○	○	○	○	○	総	ひばりルーム
15	金	○	○	○	○	○	○	総	ひばりルーム
16	土	なし	○	○	○	○	—	—	土曜授業 ひばりルーム

9/11 (月) ① 道徳「心にしみこむ言葉の力」

メディアで活躍する池上彰さんが報道記者として経験してきたことをもとに「伝える」ことについて考えます。

9/11 (月) 12 (火) 卒業アルバム写真撮影

①～⑥ 授業風景撮影

授業中にカメラマンが教室に入り、撮影します。

放課後 部活動写真撮影

11 (月) と 12 (火) の2日間に分けて撮影を行います。予定を確認しておきましょう。各部活動の活動場所で撮影します。ユニフォーム等を持参しましょう。

9/13 (水) ⑤ 生徒会役員選挙

9/14 (木) ⑥ 総合 面接指導 3

考查1週間前 部活動等放課後活動停止

放課後 ひばりルーム (自習室) 開設 ~9/20 (水)

9/15 (金) ⑥ 総合 面接指導 4

9/16 (土) 土曜授業